

企画提案実施要領別紙

1. 千葉開府の日とは

本市では6月1日を千葉のまちが始まったとして、「千葉開府の日」と位置づけています。

戦国時代末期に成立したとされる『千学集抜粹』（原本は消失）には、中世の千葉のまちの様子を伝える記述があり、これによると、大治元年（1126年）6月1日に千葉常重が千葉の地に本拠を定めたことがわかります。「16,000軒の家並みがあった」と書かれており、当時の千葉のまちが賑わっていたと推測されます。

2. 千葉開府900年とは

本市では、千葉氏が千葉にまちを開いたという大治元（1126）年を「開府」とし、大正15年に「千葉開府八百年祭」、昭和51年に「千葉開府850年祭」を行ってきました。

当時も歴史を振り返り、未来に残したいものや市としてあるべき姿を目指して記念事業を実施してきました。今回の千葉開府の日は、「千葉開府900年」・「千葉開府の日」の認知度と今後の千葉開府900年記念事業への参画や関心度を高めるため、千葉開府の日（6月1日）にあわせて理解促進に資するイベント（以下、「本イベント」という。）を実施するので、未来を担う若者が興味を持つことや参画のしやすさなどを目指し、千葉開府に興味を持ってもらえるよう、事業を推進したいと考えています。

3. 千葉氏と都川の関わり

千葉氏は、千葉に本拠地をおいた有力な武士団で、千葉氏の館は千葉の湊（船が集まる場所）に通じる都川の近くにあったと考えられています。

千葉の湊は、東京湾の向こう岸の鎌倉（神奈川県）から船で物が運ばれてくる千葉の経済の中心でした。千葉氏はこの地をおさえ、陸と海のものや人の行き来を支配していたと考えられます。

江戸時代より前は、千葉県北部は香取神宮の近くまで内海が広がっており、周辺には千葉氏が支配している土地もありました。

農作物や海産物などを、千葉の湊まで水路や陸路を使って運び、そこから幕府のあった鎌倉まで船で運んでいたと考えられています。

今回は、ちばかわまつり（都川）と連携し、和船の乗船体験のほか、体感的にまちの成り立ちや意義を知ることができる取組みとしたいと考えています。

なお、ちばかわまつり「都川」のイベント内容については、企画提案参加申込書の提出があった事業者にのみお伝えします。